

モニタリング調査結果（春～夏）

① 調査地点及び調査日

現況調査は、平成 21 年度調査実施地点 14 地点の他、新たに街中の小規模な緑地 3 地点を追加し実施した。各項目の調査日について表 1 に示す。



表 1 調査実施日程

| 調査項目 | 調査方法 | 調査時期 | 調査日 |
|---------------|-------------------------------|------|------------------------|
| 哺乳・ 両生・爬虫類 | 任意観察 | 春季 | 2022年4月15日 |
| | 任意観察 自動撮影カメラ設置 夜間コウモリ調査 | (秋季) | (2022年10月3日～5日) |
| 植物相 | 任意観察 | 春季 | 2022年5月10日～11日、20日 |
| | | 夏季 | 2022年7月27日～29日 |
| | 任意観察 植生調査 | (秋季) | (2022年10月3日～5日、11日) |
| 鳥類 | 任意観察 | 春季 | 2022年5月17日～18日、30日 |
| | | 初夏 | 2022年6月13日～14日、20日～22日 |
| | | (秋季) | (2022年10月3日～5日) |
| 昆虫類 | 任意調査 | 春季 | 2022年5月10日～12日、20日 |
| | 任意調査 ベイトトラップ | 夏季 | 2022年7月26日～29日 |
| | 任意調査 | (秋季) | (2022年9月28日～29日) |
| 魚類 | 任意捕獲 | 夏季 | 2022年8月17日～19日 |
| | | (秋季) | (2022年10月3日～5日) |
| 底生動物 | 任意採集 | 夏季 | 2022年8月17日～19日 |
| | | (秋季) | (2022年10月3日～5日) |

※秋季調査の結果は整理中

② 調査結果概要

【哺乳・両生・爬虫類】

アズマヒキガエル、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、アオダイショウの両生類1種、爬虫類4種の重要種が確認されました。

【植物】

コヒロハハナヤスリ、マツバラシ、アスカイノデ、ウマノスズクサ、ツツイトモ、ギンラン、キケマン、カザグルマ、ホザキノフサモ、ヒトツバハギ、カワヂシャの11種の重要種が確認されました。

【鳥類】

カイツブリ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、ウミネコ、カワセミ、オナガ、ヤマガラ、イソヒヨドリ等の10種の重要種が確認されました。

【昆虫類】

コサナエ、チョウトンボ、オオアメンボ、ヒメウラナミジャノメ、ウバタマムシ、ヤマトタマムシ、クズハキリバチ等の7種の重要種が確認されました。

【魚類】

ミナミメダカ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ類、ウキゴリの4種の重要種が確認されました。

【底生動物】

スジエビの1種の重要種が確認されました。

現況調査における各項目の夏季調査までの結果を示す。

両生類ではアズマヒキガエルの幼生が日比谷公園の心字池や雲形池で多数確認された。爬虫類ではニホンスッポンが日比谷公園の心字池で確認された他、ニホンヤモリが日比谷公園の樹皮の隙間で、ヒガシニホントカゲが外濠の緑道の草地や国会前庭で、アオダイショウが日比谷公園や日枝神社、靖国神社などの路上や草地で確認された。

植物は主に草地や林縁など比較的明るい場所を好むウマノスズクサやキケマン、ヒトツバハギなどが外濠の土手や日比谷公園の石垣などで確認された他、湿った場所を好むコヒロハハナヤスリが境内の苔生した場所で、ツツイトモやホザキノフサモなどの水草が国会前庭の池や外濠で確認された。
















鳥類は外濠や神田川などの水域ではカイツブリやサギ類、ウミネコなどの水鳥が多く確認され、特に牛込濠ではカイツブリの繁殖も確認された。その他、緑地の多い市街地でもみられるオナガや樹林を好むヤマガラが靖国神社などで確認された。

昆虫類は樹林が隣接するような開放的な止水域に生息するコサナエが日比谷公園の心字池で確認され、樹林に囲まれた暗がりのある止水的な環境に生息するオオアメンボが清水谷公園と靖国神社で確認された。さらにエノキやサクラの大径木に生息するヤマトタマムシが日枝神社や靖国神社などのまとまった樹林内で確認された。また、丈の低い草地に生息するヒメウラナミジャノメは外濠の緑道の広い範囲で多くの個体が確認されたほか、外濠の緑道に隣接するホテルニューオータニと弁慶濠においても確認された。

魚類は重要種が確認された地点は、外濠と比較的規模が大きい水域がある公園であり、日比谷公園や清水谷公園の公園内の池ではミナミメダカやトウヨシノボリ類が確認され、新見附濠・牛

込濠ではヌマチチブやウキゴリが確認された。

底生動物は日本橋川、新見附濠・牛込濠でスジエビが確認された。

| | | |
|---|---|---|
|  |  |  |
| アズマヒキガエル | アオダイショウ | コヒロハハナヤスリ |
|  |  |  |
| マツバラシ | ツツイトモ | ギンラン |
|  |  |  |
| カイツブリ | オオバン | ウミネコ |
|  |  |  |
| オオアメンボ | ヒメウラナミジャノメ | ヤマトタマムシ |
|  |  |  |
| ヌマチチブ | ウキゴリ | スジエビ |

③ 過年度との比較（植物）

- ・外濠の緑道沿いの斜面には定期的な下草刈りの実施により良好な草地環境が維持されています。
- ・ホテルニューオータニの斜面、清水谷公園、日枝神社などには古くからの地形と樹林が安定的に維持されており、希少な植物の生息も見られます。
- ・練成公園など市街地内の小規模な公園では他の緑地と較べて生きものが少ない状況です。
- ・国会前庭の池において水草の重要種が新たに確認されました。皇居から鳥散布により運ばれ、新たに生育したものと考えられます。
- ・ノハカタカラクサ、シマトネリコなど外来植物や生態系への影響が懸念される外来種が増加・新たに出現しています。鉢植えの植物が公園内に放棄されている状況も見られます。

植物において、2011 年度調査結果との比較を行った。

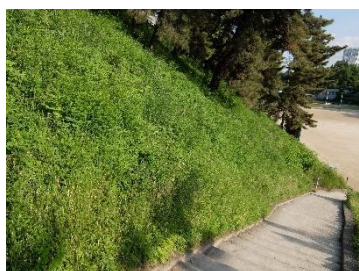
外濠の緑道沿いの土手斜面は定期的な下草刈りの実施により継続して草地環境が維持され、東京都内では希少なワレモコウ、ツリガネニンジン、ノアザミなどが過年度と同様生育していた。

弁慶濠に面したホテルニューオータニの斜面は今年度新たにギンランやアスカイノデが確認されるなど、里山の雑木林の環境が残された貴重な場所と言える。また、清水谷公園や日枝神社なども引き続き千代田区内では貴重な自然度の高い樹林や草地が安定的に維持されていた。

新たに調査を実施した大手町 JA ビルの屋上緑化地、和泉公園、練成公園は新規に造成された植栽地であり、確認種も植栽種が中心で、生育種数は少なかった。

皇居の内濠や外濠ではツツイトモやホザキノフサモ、エビモなどの水草の生育が知られており、今年度の調査においても弁慶濠でホザキノフサモが確認された。しかし、過年度の調査では確認されていなかった国会前庭の池において、ツツイトモやホザキノフサモが新たに確認された。これは、皇居の濠から水鳥による鳥散布により運ばれ、新たに生育したものと考えられる。

その他、外来種も多く確認された。ノハカタカラクサは外濠の緑道や日比谷公園、日枝神社、靖国神社、新見附濠・牛込濠で確認され、いずれの調査地区でも林床にマット状に広がっており、在来種を被圧してしまう可能性が考えられる。また、シマトネリコは今年度新たに確認された外来種であり、近年植栽として多く利用されている。現地調査では実生も確認したことから、周辺の植栽木からの種子散布によって広がっていると考えられる。さらに、カラクサナズナやマツバウンランといった都内の市街地で普通にみられる外来種も新たに確認された。錦華公園では緑地内に鉢植え植物が放棄されている状況も確認された。



外濠の緑道



ホテルニューオータニの斜面



日枝神社



④ 過年度との比較（重要種）

- ・外濠の緑道では定期的な草刈りなどにより生育環境が引き続き維持されており、ヒトツバハギやヒメウラナミジャノメなどが前回同様確認されました。
- ・都市公園内の規模の大きな水域や、樹林が接する外濠などのお濠は、都市において水鳥の生息を支える重要な環境となっています。
- ・公園などの緑地に担保されているまとまった止水環境は水生昆虫の生息の場として貴重な存在となっています。
- ・日比谷公園は大きな緑地で、草地や樹林、水域と様々な環境を有し、また皇居近くに位置していることから、過年度から引き続き多くの重要種が生育しています。一方で、規模の小さい公園などでは重要種は過年度から変わらずほとんど確認されていません。

2011年度調査で確認された重要種と今年度調査で確認された重要種の一覧表を表2に示す。

爬虫類・両生類では、アオダイショウが今年度調査で初めて確認されている。そのほか、ニホンヤモリやヒガシニホントカゲについては、前回調査と確認地点が多少異なるものの、都市化により生育環境が減少していく中で、公園や神社などに残る樹林や草地環境で生息していると考えられる。一方、クサガメは今年度調査で確認されなかったが、今後の調査で確認される可能性が考えられる。

植物では、ホザキノフサモ、ヒトツバハギが前回調査以降、2020年度に東京都レッドリストの見直しが行われたことにより新たにレッドリストに追加された。ホザキノフサモは前回調査と同じ弁慶濠の他、新たに国会前庭でも確認された。ヒトツバハギは前回調査でも同じ外濠の緑道で確認されており、生育環境が引き続き定期的な草刈りなどによって維持されていると考えられる。また、ウマノスズクサ、キケマン、カザグルマも前回調査と同様に同じ地区確認されており、草刈りなどの管理により生育環境が維持されていると考えられる。そのほか、コヒロハハナヤスリ、マツバラン、アスカイノデのシダ植物、ツツイトモ、ギンランは前回確認されておらず、今年度調査で初めて確認された。なお、今年度確認できなかった重要種はなかった。

鳥類では、ウミネコ、オナガが前回調査以降、新たにレッドリストに追加された種であり、両種は前回と同じ地区で確認された。オナガはさらに別の地区でも多く確認され、都市公園の小規模な緑地を行き来しながら利用していると考えられる。また、オオバンやチュウサギは前回確認されておらず、今年度調査で初めて確認された。水鳥類は前回調査と同様に多くの種類が確認さ

れており、都市公園内の規模の大きな水域や、樹林が隣接する外濠などのお濠は都市において水鳥類の生息を支える重要な環境と考えられる。一方、ヒメアマツバメ、ノスリ、モズ、コサメビタキは今年度調査で確認されなかったが、今後の調査で確認される可能性が考えられる。

昆虫類ではヒメウラナミジャノメ、クズハキリバチが前回以降、新たにレッドリストに追加された種であった。両種とも前回と同じ地区でも確認されており、引き続き草刈りなどにより生育環境が維持されているものと考えられる。また、コサナエやオオアメンボ、ウバタマムシ、ヤマトタムシは前回確認されておらず、今年度調査で初めて確認された。コサナエやオオアメンボは樹林が隣接する止水域に生息する種であり、日比谷公園、清水谷公園、靖国神社といった緑地に担保されているまとまった止水環境（池）は、これらの種の生息を支える貴重な存在と考えられる。一方、ホソミオツネトンボやクマスズムシなどは今年度調査では確認されなかった。ホソミオツネトンボは過年度、皇居から飛来した個体を偶然確認したのと考えられる。

魚類調査ではヌマチチブ、トウヨシノボリ類、ウキゴリが前回以降、新たにレッドリストに追加された種であった。トウヨシノボリ類、ウキゴリは前回と同じ地区でも確認された。ミナミメダカは前回と同様、公園内の比較的規模の大きい水域で確認された。一方、マルタやナマズは今年度調査では確認されなかった。

底生動物では、前回同様スジエビが確認された。そのほかオオタニシ、テナガエビ、サワガニ、モクズガニ、ハグロトンボ、ババアメンボ、ハネナシアメンボは今年度調査で確認されなかったが、同定作業中であることや、今後の調査で確認される可能性が考えられる。



外濠

清水谷公園

日比谷公園

表 2 重要種比較一覧

| No. | 項目 | 種名 | 調査地点 | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 備考 | | | |
|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------------|-----------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|-----------|--------------|-----------|----|-----------|----------|------|------|
| | | | 日比谷公園 | 国会前庭 | 日枝神社 | 清水谷公園 | ニューホテル オータニ | 外濠の緑道 | 靖国神社 | 錦華公園 | 神田児童公園 | 神田川 | 日本橋川 | 東郷元帥記念公園 | 新見附濠・ 牛込濠 | 弁慶濠 | | | 大手町J Aビル | 和泉公園 | 練成公園 |
| 1 | 哺乳類 | クサガメ | 未 | | | | | | | | | | | | | | | | 0(-1) | | |
| 2 | 爬虫類 | ニホンスッポン | 継 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 3 | 両生類 | ニホンヤモリ | 継 | 未 | 未 | 未 | | 未 | 未 | | | | 未 | 未 | | | | | 1(-7) | | |
| 4 | | ヒガシニホントカゲ | | 継 | 新 | | | 継 | | | | | | 未 | | | | | 3 | | |
| 5 | | アオダイショウ | 新 | | 新 | | | | 新 | | | | | | | | | | 3(+3) | | |
| 6 | | アズマヒキガエル | 継 | | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 未 | 1(-9) | | |
| | 合計 | 5種 | 4 | 1 (-1) | 2 | 0 (-2) | 0 (-1) | 1 (-2) | 1 (-1) | 0 (-1) | 0 | 0 | 0 | 0 (-2) | 0 (-3) | 0 (-1) | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 1 | 植物相 | コヒロハハナヤスリ | | | | | | | 新 | | | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 2 | | マツバラン | 新 | | | | | | | | | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 3 | | アスカイノデ | | | 新 | | 新 | | | | | | | | | | | | 2(+2) | | |
| 4 | | ウマノスズクサ | | | | | | 継 | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 5 | | ツツイトモ | | 新 | | | | | | | | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 6 | | ギンラン | | | | | 新 | | | | | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 7 | | マコモ | | | | | | | | | | | | 継 | | | | | 1 | 注1 | |
| 8 | | キケマン | 継 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 9 | | カザグルマ | | | | | | | | | | | | 継 | | | | | 1 | | |
| 10 | | ホザキノフサモ | | 新 | | | | | | | | | | | 継 | | | | 2(+1) | 注2 | |
| 11 | | ヒトツバハギ | | | | | | 継 | | | | | | | | | | | 1 | 注2 | |
| 12 | | カワヂシャ | 継 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 合計 | 12種(+5) | 3 (+1) | 2 (+2) | 1 (+1) | 0 | 2 (+2) | 2 | 1 (+1) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 1 | 鳥類 | カイツブリ | | | | | | | | | | | | 継 | | | | | 1 | | |
| 2 | | ダイサギ | 新 | | | | | 未 | | | 新 | 未 | 継 | 継 | | | | | 4 | | |
| 3 | | チュウサギ | 新 | | | | | | | | | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 4 | | コサギ | | | | | | | | | | 継 | 未 | 未 | | | | | 1(-2) | | |
| 5 | | オオバン | | | | | | | | | 新 | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 6 | | ヒメアマツバメ | 未 | | | | | | 未 | | | | | | | | | | 0(-2) | | |
| 7 | | ウミネコ | | | | | | | | | 継 | | | | | | | | 1 | 注2 | |
| 8 | | ノスリ | | 未 | | | | 未 | | | | | | | | | | | 0(-2) | | |
| 9 | | カワセミ | 未 | 未 | | 未 | | | | | | | 新 | 継 | | | | | 2(-2) | | |
| 10 | | モズ | 未 | 未 | | | | 未 | | | | | | 未 | | | | | 0(-4) | | |
| 11 | | オナガ | 未 | 未 | | | | 継 | 新 | | 新 | 新 | | | | | | 新 | 5(+2) | 注2 | |
| 12 | | ヤマガラ | 継 | 未 | 未 | 未 | | | 継 | 新 | | | | | | | | | 3(-3) | | |
| 13 | | イノヒヨドリ | | | | | | | | | 新 | | | | | | | | 1(+1) | | |
| 14 | | コサメビタキ | 未 | 未 | | | | | 未 | | | | | | | | | | 0(-3) | | |
| | 合計 | 10種(-1) | 3 (-3) | 0 (-6) | 0 (-1) | 0 (-2) | 0 (-1) | 1 (-3) | 2 (-1) | 1 (+1) | 0 | 5 (+4) | 1 (-1) | 1 (+1) | 3 | 2 (-2) | 0 | 1 (+1) | 0 | - | - |

※「未」：2011年度に確認されたが、今年度夏までの調査では確認されていない種

「新」：2011年度に確認されなかったが、今年度夏までの調査で新たに確認された種

「継」：2011年度、今年度調査両方で確認された種

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、2011年度との差を（）で示した。

※「注1」：2011年度は重要種に該当するが、今年度は重要種に該当しない種

「注2」：2011年度は重要種に該当しないが、今年度は重要種に該当する種

※2011年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※2022年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

表 2 重要種比較一覧

| No. | 項目 | 種名 | 調査地点 | | | | | | | | | | | | | | | 合計 | 備考 | |
|-------|-----|--------------|--------|-------|-------|-------|------------|-------|------|------|--------|-------|-------|----------|----------|-----|----------|----|-------|------|
| | | | 日比谷公園 | 国会前庭 | 日枝神社 | 清水谷公園 | ニューオータニホテル | 外濠の緑道 | 靖国神社 | 錦華公園 | 神田児童公園 | 神田川 | 日本橋川 | 東郷元帥記念公園 | 新見附濠・牛込濠 | 弁慶濠 | 大手町J Aビル | | | 和泉公園 |
| 1 | 昆虫類 | ホソミオツネトンボ | 未 | | | | | | | | | | | | | | | | 0(-1) | |
| 2 | | コサナエ | 新 | | | | | | | | | | | | | | | | 1(+1) | |
| 3 | | チョウトンボ | 未 | | | | | 新 | | | | | | | | 新 | | | 2(+1) | |
| 4 | | クマスズムシ | | | | | | | | | | | | | | 未 | | | 0(-1) | 注1 |
| 5 | | シヨウリョウバツタモドキ | | | | | | | 継 | | | | | | | | | | 1 | 注1 |
| 6 | | リンゴクロカスミカメ | 未 | | | | | 未 | | | | | | | | | | | 0(-2) | |
| 7 | | オオアメンボ | | | | 新 | | | 新 | | | | | | | | | | 2(+2) | |
| 8 | | ヒメウラナミジャノメ | | | | | 新 | 継 | | | | | | | | 継 | | | 3(+1) | 注2 |
| 9 | | ウバタマムシ | | | | | | 新 | | | | | | | | | | | 1(+1) | |
| 10 | | ヤマトタマムシ | | | 新 | | | 新 | 新 | | | | | | | | | | 3(+3) | |
| 11 | | クズハキリバチ | | | | | | | | | | | | | | 継 | | | 1 | 注2 |
| 合計 | | 8種(+1) | 1(-2) | 0 | 1(+1) | 1(+1) | 5(+2) | 2(+2) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 1 | 魚類 | マルタ | | | | | | | | | | 未 | | | | | | | 0(-1) | |
| 2 | | ナマズ | | | | | | | | | | | | | 未 | | | | 0(-1) | |
| 3 | | ミナミメダカ | 継 | | | 新 | | | | | | | | | | | | | 2(+1) | |
| 4 | | ヌマチチブ | | | | | | | | | | | | | 新 | | | | 1(+1) | |
| 5 | | トウヨシノボリ類 | 継 | | | 新 | | | | | | | | 継 | 未 | | | | 3 | 注2 |
| 6 | | ウキゴリ | | | | | | | | | | | | 継 | | | | | 1 | 注2 |
| 合計 | | 4種(-1) | 2 | 0 | 0 | 2(+2) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0(-1) | 0 | 3(+1) | 0(-2) | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 1 | 底生 | オオタニシ | | | | | | | | | | | | | 未 | | | | 0(-1) | |
| 2 | | テナガエビ | 未 | | | | | | | | | 未 | | 未 | 未 | | | | 0(-4) | |
| 3 | | スジエビ | 未 | | | 未 | | | | | | 新 | | 継 | 未 | | | | 2(-2) | |
| 4 | | サワガニ | | | | | | | | | | | | | 未 | | | | 0(-1) | |
| 5 | | モクズガニ | | | | | | | | | | | | 未 | | | | | 0(-1) | |
| 6 | | ハグロトンボ | | | | | | | | | | 未 | | | | | | | 0(-1) | |
| 7 | | ババアメンボ | | | | | | | | | | | | | 未 | | | | 0(-1) | |
| 8 | | ハネナシアメンボ | | | | | | | | | | | | | 未 | | | | 0(-1) | |
| 合計 | | 1種(-7) | 0(-2) | 0 | 0 | 0(-1) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1(-1) | 0 | 1(-2) | 0(-6) | 0 | 0 | 0 | - | - |
| 全項目合計 | | 40種(-3) | 13(-6) | 3(-5) | 4(+1) | 3(-2) | 9(+1) | 6(+1) | 1 | 0 | 5(+4) | 2(-3) | 1(-1) | 9(-4) | 6(-11) | 0 | 1(+1) | 0 | - | - |

※「未」：2011年度に確認されたが、今年度夏までの調査では確認されていない種

「新」：2011年度に確認されなかったが、今年度夏までの調査で新たに確認された種

「継」：2011年度、今年度調査両方で確認された種

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、2011年度との差を（）で示した。

※「注1」：2011年度は重要種に該当するが、2022年度は重要種に該当しない種

「注2」：2011年度は重要種に該当しないが、2022年度は重要種に該当する種

※2011年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※2022年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

⑤ 調査地点ごとのまとめ

【日比谷公園】

大きな緑地で草地や樹林、水域と様々な環境を有し、また皇居近くに位置していることから、過年度から引き続き多くの重要種が確認された。過年度調査と比べ重要種の種数は少なかったが、大きな環境の変化は見られないため、過年度偶発的に確認されたと考えられる種や、今後の調査で確認される可能性のある種があると考えられる。

【国会前庭】

調査地区の一部が工事中であったため、過年度と比べ重要種の種数が少なかったと考えられる。また、今後の調査で確認される可能性がある種があるためと考えられる。一方、調査地区内の池において、ツツイトモやホザキノフサモが新たに確認された。これは、皇居の濠から水鳥によって種子などが運ばれ、新たに生育したものと考えられる。

【日枝神社】

調査地区の一部が工事中であるものの、環境に大きな変化はなく、過年度と比べ新たな重要種が確認されるなど、良好な環境が維持されていると考えられる。

【清水谷公園】

過年度と比べ重要種の種数が少なかったが、オオアメンボやミナミメダカなどの水生生物が新たに確認されるなど、まとまった止水環境が水生生物の生息場として貴重な存在となっていると考えられる。

【ホテルニューオータニ】

斜面林内に広く立ち入った調査を行うことができたため、アスカイノデやギンランなどの樹林性の種が新たに確認された。

【外濠の緑道】

定期的な草刈りなどにより生育環境が引き続き維持されており、ヒトツバハギやヒメウラナミジャノメなどが過年度同様に確認された。ただし、一部ではソメイヨシノの衰弱や枯損木の伐採により林床環境が変化している所もある。

【靖国神社】

確認された種に違いはあるものの種数は大きく変わっておらず、また大きな環境の変化もない。

【錦華公園】【神田児童公園】

いずれも規模の小さな公園であり、過年度から変わらず重要種はほとんど確認されなかった。

【神田川】【日本橋川】

主に水鳥が確認されており、両河川は規模の大きな水域であり、水鳥の生息を支える重要な環境となっている。

【新見附濠・牛込濠】【弁慶濠】

樹林や草地に隣接した規模の大きな水域であり、草地性の種や水鳥が引き続き確認されている。過年度と比べ重要種の種数が少なかったが、大きな環境の変化は見られないため、今後の調査で確認される可能性のある種もある。

【大手町 JA ビル】【和泉公園】【練成公園】

今年度新たに追加となった地点である。いずれも規模の小さな緑地であることから、重要種はほとんど確認されなかった。